

## 平成 21 年度 普及に移す農業技術(第 1 回)

[分類] 普及技術

[成果名] セルリーのハダニ類防除にコロマイト乳剤が有効である

[要約] セルリーのハダニ類防除にコロマイト乳剤の 2,000 倍液を散布する。蚕毒、魚毒が強いので桑葉への飛散および河川、湖沼などへの流入に十分注意する。

[担当] 野菜花き試験場 環境部、農業試験場 環境部、野菜花き試験場 佐久支場

[部会] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

セルリーではハダニ類、アブラムシ類、ハモグリバエ類をはじめとして各種害虫が発生し、大きな被害を引き起こす。しかし、登録薬剤が少ないため殺虫剤が求められている。コロマイト乳剤はハダニ類防除に有効な薬剤と考えられ、農薬登録促進として野菜花き試験場環境部で効果試験、同佐久支場で試料調整、農業試験場環境部（農業総合試験場環境保全部）で作物残留調査を実施し、適用拡大がおこなわれたので、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

(1) セルリーのハダニ類防除にコロマイト乳剤の 2,000 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

コロマイト乳剤

[一般名及び成分含量] ミルベメクチン 1.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] C類

[対象作物に対する適用登録状況(平成 21 年 9 月 2 日 JPP ネット確認)]

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10a 当り 散布液量	使用時期	本剤及びミルベメクチンを含む農薬の総使用回数	使用方法
セルリー	ハダニ類	2,000 倍	100 ~ 300L	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布

### 3 利用上の留意点

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑にかからないよう桑園付近では使用しない。
- (2) 本剤は水産動物に強い影響を及ぼすので、河川、湖沼および養殖池に本剤が飛散、流入する恐れのある場所では使用しない。
- (3) ミツバチに対して軽度の影響があるので、巣箱に直接かからないように注意し、養蜂がおこなわれている地区では周辺への飛散に注意する。
- (4) ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないようにていねいに散布する。またハダニ類は一世代が短いので発生世代数が多く、殺ダニ剤に対する抵抗性を発達させやすいので連用は避ける。

### 4 対象範囲

県下全域

### 5 具体的データ

(1) ナミハダニに対して、中発生条件下では処理 3 日後から無処理と比較して高い防除効

- 果が認められた(表1)。  
 (2) ナミハダニに対して、少発生条件下では処理3日後から無処理と比較して高い防除効果が認められた(表2)。  
 (3) いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表1 ナミハダニに対するコロマイト乳剤の効果(平成17年、野菜花き試)

供試薬剤	希釈倍数	処理前	3日後	7日後	14日後	薬害
コロマイト乳剤	2,000	83	7(7.5)	0(0)	3(1.3)	なし
無処理	-	92	103	168	247	

値はあらかじめ定めた20小葉当たりの3反復合計個体数、( )は補正密度指数。

試験場所：野花試験内圃場 対象害虫発生状況：中発生

品種：「コーネル619」1区5m<sup>2</sup> 10株 3反復 定植：5月27日

処理方法：7月4日に規定濃度の薬液を背負い式動噴を用いて10a当たり200Lの割合で散布。展着剤は加用しなかった。

調査方法：処理前(7月4日)、3日後(7月7日)、7日後(7月11日)および14日後(7月18日)に各区に生息する雌成虫個体数をカウント。薬害は肉眼観察による。

$$\text{補正密度指数} = \frac{\text{処理区処理後密度} \times \text{無処理区処理前密度}}{\text{処理区処理前密度} \times \text{無処理区処理後密度}} \times 100$$

表2 ナミハダニに対するコロマイト乳剤の効果(平成19年、野菜花き試)

供試薬剤	希釈倍数	処理前	3日後	7日後	14日後	薬害
コロマイト乳剤	2,000	31	2(5.1)	0(0)	0(0)	なし
無処理	-	26	33	58	86	

値はあらかじめ定めた20小葉当たりの3反復合計個体数、( )は補正密度指数。

試験場所：野花試験内圃場 対象害虫発生状況：少発生

品種：「コーネル619」1区5m<sup>2</sup> 10株 3反復 定植：5月22日

処理方法：8月6日に規定濃度の薬液を背負い式動噴を用いて10a当たり200Lの割合で散布。展着剤は加用しなかった。

調査方法：処理前(8月6日)、3日後(8月9日)、7日後(8月13日)および14日後(8月20日)に各区に生息する雌成虫個体数をカウント。薬害は肉眼観察による。

## 6 その他特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きの病害虫防除農薬の効果試験(野花試環境部)、平成17、19年度(2005、2007年度)、県単素材開発

農薬残留安全使用等特別対策調査(農試環境部)、平成15年度(2003年度)、その他(国補)

東信地域の作物に対する病害虫防除試験(野花試佐久支場)、平成15年度(2003年度)、県単素材開発